

ば、海洋学、火山学などの研究者にも、航空機観測の利用面を聞くのもよい。

以上が主な意見で、そのほか多くの意見が寄せられた。そこで、これらの意見を参考にさせていただいて、次のような提案をしたいので、それについて意見、具体案をお寄せ下さるようお願いする。

第1に、関係研究機関は、観測用航空機の実現のためにどんなプランを持ち、それをどのように進めているか、その状況を公開し、観測機の性能、運用に関して気象研究者が広く意見を述べる機会をつくっていただきたい。

第2に、専用機が持てるまで、せめてチャーター機による観測でも、各研究者による測器の開発が日本全体としての蓄積となるよう努力していただきたい。たとえば、各研究者がそれぞれ開発した各種の測器を集めて、一つの航空機に取り付けられれば、アメリカクラスの観測機となる、といった形の協力体制ができないものであろうか。

第3に、アメリカの観測機でも、自分の位置を時々刻々記録することは可能だが、雲中観測の場合、雲の中の

どこを飛んでいるのか、を記録する技術はまだ実用化されていないようである。このように、観測機の運用に関してはまだ多くの技術的問題があると思われるので、その研究を進めるような研究体制をつくっていただきたい。

第4に、気象学・大気物理学ならびにその他の研究分野において、航空機を研究にどのように使用しているか、実情と要求の調査をしていただきたい。航空機でも単発のセスナから双発のYS 11、4発のC130までいろいろ考えられるので、どのクラスの航空機をどんな形で何時間使用するか、といった要求を調査してはどうか。また、運用についても、多くの研究機関が使用する場合には、どんな形の調整が必要か、といった問題についても、広く意見を求めておくとよいと思われる。

以上、思いつくままに述べたが、ほかにも観測用航空機については、まだまだ多くの意見をお持ちの方がいるに違いない。この小論をきっかけに論壇への投稿を期待したい。

質疑応答

《特別企画》 エレガントな説明を求む

気象学を専門としない一般の人から次のような質問を受けました。あなたなら、どのように答えますか。わかり易いエレガントな説明を求めます。下記の要領に従って奮ってご応募ください。

記

- 1) 1問につき、400 語原稿用紙 5 枚以内で答えてください。
- 2) 何問答えていただいても結構です。
- 3) 誌上匿名可。
- 4) 各問題ごとに天気編集部でコンテストを行ない、最優秀作品に賞品を贈呈します。

Q1: 大気はなぜ対流圏と成層圏に分かれているのですか。

Q2: 対流圏では、なぜ、1 km 上昇すると気温が 6.5°C 下がるのですか？

Q3: なぜ、同じ天気がいつまでも続かないで、晴れた

り、曇ったり、雨が降ったりするのですか？ また、その変化が不規則に生じるのはどうしてでしょうか？

Q4: 高気圧に前線がないのはなぜですか？

Q5: 高低気圧の最高（低）記録はどのくらいですか、これには限界があるのですか？

Q6: 台風の眼はどうしてできるのですか？

Q7: 竜巻はなぜ生じるのでしょうか？

Q8: 積雲はどうして上に向かってモクモクしているのですか？ 下に向かってモクモクしている雲はありますか？

Q9: コリオリの力を説明してください。

Q10: 温帯性高低気圧の成因と言われる傾圧不安定とはどういう現象でしょうか？

なお、これ以外によい質問がありましたら、編集部までお知らせいただければ幸いです。

正 誤 表 (下記の通り誤植がありましたのでお詫びして訂正します)

巻 号	ページ	行	誤	正
24. 10.	627	左下11		未発表 (追加)

月例会「長期予報・大気大循環」のお知らせ

主 題：長期予報・大気大循環

申 込 先：気象庁長期予報課

日 時：昭和53年3月1日(水) 9時30分より

(電話 03-212-8341 内線 330)

会 場：気象庁内

植 木 九 州 男

講演申込期日：12月26日(月)

≡≡≡ 質 疑 応 答 ≡≡≡

《特別企画》 エレガントな説明を求む

投稿募集

「天気」編集委員会では、初めての試みとして、上の企画への投稿を募集しています(詳しくはP. 682をご覧ください)。

冬の夜長の^{すまびごと}遊事として、または冬休みの無聊の慰めとして、どうか奮ってご投稿下さい。

あて先：東京都千代田区大手町 1-3-3 気象庁構内
日本気象学会 天気編集委員会